シ　ラ　バ　ス

（令和3年度）
作業療法学科
昼間コース1年生

学校法人　巨樹の会

小倉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学院

共生

共に学び　共に歩み　共に進む

私ども小倉リハビリテーション学院は、専門的な知識技術を提供する前に利用者の方々の立場に軸足を置き、思考することを第一義に考える専門家の輩出をめざしております。

本来サービスという言葉の持つ意味は利用者本位でなくてはなりません。特に保健・医療・福祉分野では、安全で個別性があり質の高いサービスの提供が相互の信頼を生むものと確信しております。

教職員および学生一同は建学の精神を心に刻み、次世代に残すべき人『人財』の育成をモットーに地域の皆様と「共」に学び・歩み・進むことをお約束いたします。

教　育　目　標

一　心豊かに分かり合える、理学療法士・作業療法士であること

一　信頼される、理学療法士・作業療法士であること

一　くらしを支える、理学療法士・作業療法士であること

令和3年度年間予定

令和3年度　年間予定

理学療法学科・作業療法学科（昼間コース）

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月3日（土）	始業 4月1日（木）	始業 4月1日（木）
	オリエンテーション・面談 4月1日（木）　～　4月2日（金）	面談 4月5日（月）　～　随時	講義 4月1日（木）　～　4月9日（金）
	講義 4月5日（月）　～　7月16日（金）	講義 4月5日（月）　～　7月16日（金）	臨床実習（模倣・解釈） 4月12日（月）　～　5月7日（金）
	補講・定期試験期間 7月19日（月）　～　8月　6日（金） 8月10日(火）予備日	補講・定期試験期間 7月19日（月）　～　8月　6日（金） 8月10日(火）予備日	講義 5月10日（月）　～　5月21日（金）
	夏季休業 8月11日（水）　～　9月5日（日）	夏季休業 8月11日（水）　～　9月5日（日）	臨床実習（統合Ⅰ） 5月24日（月）　～　7月16日（金）
	再試験（対象者のみ） 8月30日（月）　～　9月3日（金）	再試験（対象者のみ） 8月30日（月）　～　9月3日（金）	講義 7月19日（月）　～　7月30日（金）
後期	講義 9月6日（月）　～　12月17日（金）	講義 9月6日（月）　～　12月17日（金）	合同就職説明会 7月28日（水）
	補講・定期試験期間 12月20日（月）　～　12月24日（金） 1月　4日（月）　～　1月12日（水） 1月13日(木）予備日	補講・定期試験期間 12月20日（月）　～　12月24日（金） 1月　4日（月）　～　1月12日（水） 1月13日(木）予備日	臨床実習（統合Ⅱ） 8月2日（月）　～　9月24日（金）
	冬季休業 12月25日（土）　～　1月3日（月）	冬季休業 12月25日（土）　～　1月3日（月）	就職説明会 9月30日（木）
	再試験期間（対象者のみ） 1月31日（月）　～　2月4日（金）	再試験期間（対象者のみ） 1月31日（月）　～　2月4日（金）	講義および国家試験対策 9月27日（月）　～　2月18日（金）
	実習オリエンテーション/　実習振り返り 1月14日（金）/3月7日(月）	実習オリエンテーション/　実習振り返り 1月14日（金）/3月14日(月）	第57回　国家試験 2月20日（日）予定
	臨床実習Ⅰ 2月7日（月）　～　3月5日（土）	臨床実習Ⅱ（PT）、臨床実習Ⅱ-1（OT） 2月7日（月）　～　3月5日（土）	
		評価演習（PT）、臨床実習Ⅱ-2（OT） 2月21日（月）　～　3月19日（土）	卒業式 3月4日（金）
	春季休業 3月14日（月）　～　3月31日（木）	春季休業 3月21日（月）　～　3月31日（木）	

カリキュラム

令和3年度新入学生　作業療法学科 昼間コース カリキュラム

分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	時間数	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2
		自然科学	統計学				30			30	2
			情報処理				30			30	2
			物理学	30						30	2
		コミュニケーション学	基礎教養	30						30	2
			対人関係演習Ⅰ	30						30	2
			対人関係演習Ⅱ		30					30	2
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30						30	2
			解剖学Ⅱ		30					30	2
		生理学	生理学Ⅰ	30						30	2
			生理学Ⅱ		30					30	2
		運動学	運動学Ⅰ	60						60	4
			運動学Ⅱ		30					30	2
			運動学演習Ⅰ	30						30	2
			運動学演習Ⅱ		30					30	2
		人間発達学	人間発達学		30					30	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30						30	2
			リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30					30	2
		臨床医学総論	医学概論	30						30	2
			病理学概論			30				30	2
		臨床医学各論	整形外科学			30				30	2
			内科学			30				30	2
			神経内科学			30				30	2
			臨床心理学		30					30	2
			精神医学		30					30	2
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと作業療法Ⅰ	30						30	2
			リハビリテーションと作業療法Ⅱ	30						30	2
専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	基礎作業学Ⅰ	30						30	2
			基礎作業学Ⅱ		60					60	2
			基礎作業学Ⅲ			30				30	1
			生活機能演習				30			30	1
	作業療法管理学	作業療法管理	作業療法管理学					30		30	2
	作業療法評価学	作業療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ	60						60	2
			基礎評価学演習Ⅱ		60					60	2
			基礎評価学演習Ⅲ			30				30	1
			基礎評価学演習Ⅳ				30			30	1
			臨床評価学演習Ⅰ	30						30	1
			臨床評価学演習Ⅱ		30					30	1
	作業療法治療学	日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ		30					30	1
			日常生活活動学演習Ⅱ			30				30	1
		義肢装具学	義肢学		30					30	1
			装具学			30				30	1
		疾患別作業療法学	高齢期の作業療法				30			30	1
			中枢神経疾患の作業療法学Ⅰ			60				60	2
			中枢神経疾患の作業療法学Ⅱ				30			30	1
			運動器疾患の作業療法学				60			60	2
			小児疾患の作業療法学			30				30	1
			内部障害系疾患の作業療法学Ⅰ			30				30	1
			内部障害系疾患の作業療法学Ⅱ				30			30	1
			精神障害の作業療法学Ⅰ			60				60	2
			精神障害の作業療法学Ⅱ				60			60	2
			高次脳機能障害の作業療法学				30			30	1
			作業療法学技術演習Ⅰ			60				60	2
			作業療法学技術演習Ⅱ				60			60	2
		作業療法総合学習	作業療法学総合学習Ⅰ						60	60	2
			作業療法学総合学習Ⅱ						60	60	2
			作業療法学総合学習Ⅲ						60	60	2
	地域作業療法学	地域作業療法学	生活環境学				30			30	2
			地域作業療法学演習				30			30	2
	臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ		45					45	1
			臨床実習Ⅱ－1				45			45	1
			臨床実習Ⅱ－2				90			90	2
			臨床実習Ⅲ					360		360	8
			臨床実習Ⅳ					450		450	10
			基礎分野	120	30	0	60	0	0	210	14
			専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42
			専門分野	120	210	360	420	30	180	1320	48
			実習	0	45	0	135	810	0	990	22
			前期・後期小計	510	525	480	615	840	180	3150	126
			前後期合計	1035		1095		1020			

＊基礎分野：講義15～30時間1単位
＊専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位
実習30～45時間1単位
＊専門分野：同上
＊臨床実習：40～45時間1単位

シラバス

Ⅰ．基礎分野

講義科目	心理学			
担当講師	都能　美智代		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①心理学とは何かを理解する。 ②医療と心理学の関係を理解する。 ③心理学の歴史と現代の医療行動科学の位置づけを理解する。
2	医療行動科学の基本概念 ②心のモデル	①フロイトの心的力動理論の概要を理解する。 ②人間の適応の概要を理解する。 ③人間情報処理モデルとしての認知科学・神経科学の概要を理解する。
3	行動科学の基本法則 ①学習の理論	①古典的条件づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②道具的条件づけを理解する。 ③認知学習について理解する。
4	行動科学の基本法則 ②記憶の構造とはたらき	①記憶の区分と働きを理解する。 ②記憶の分類を理解する。 ③パペッツ回路と記憶障害を理解する。
5	行動科学の基本法則 ③知覚の様式	①知覚と感覚を理解する。 ②視覚の概要を理解する。 ③聴覚の概要を理解する。
6	行動科学の基本法則 ④感情	①情動とは何かを理解する。 ②感情の機能を理解する。 ③記憶と感情の関係を理解する。
7	行動科学の基本法則 ⑤動機と覚醒水準	①動機づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②動機づけの種類を理解する。 ③欲求と葛藤、不満行動を理解する。
8	行動科学の基本法則 ⑥社会心理学	①社会的認知を理解する。 ②自己と他者を理解する。 ③社会化と社会的影響を理解する。
9	行動科学の基本法則 ⑦ストレスのメカニズム	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスコーピングと自立訓練法を知る。
10	行動科学的介入の基礎知識 ①パーソナリティ	①パーソナリティの形成を理解する。 ②パーソナリティと病気の関係（パーソナリティ理論）を知る。 ③パーソナリティ測定（バウムテスト）を知る。
11	行動科学的介入の基礎知識 ②知性と感性	①知能の定義を理解する。 ②知能検査方法を知る。 ③知能の発達と障害を知る。
12	行動科学的介入の基礎知識 ③心の発達と危機	①発達の概要を理解する。 ②エリクソンのライフサイクル論を理解する。
13	行動科学的介入の基礎知識 ④心の発達と危機	①ピアジェの発達段階を理解する。 ②中年期以降の心理的変化を理解する。
14	行動科学的介入の基礎知識 ⑤心理学的介入	①精神分析法（内容と人名）を理解する。 ②行動療法（行動療法の理論）を理解する。 ③カウンセリング（来談者中心療法）を理解する。
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田　冨美雄	北大路書房	1998
参考図書等				

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	心理学は国家試験に出題される重要な科目であり、理学療法士、作業療法士にとって対象者理解にとって必要不可欠な科目であり、記憶学習ではなく人の行動の成り立ちを興味を持ち学習して下さい。		

講義科目	物理学			
担当講師	川岡　有輔		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	物理学で学習すること	①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学
2	物理量とその表し方 (1)	①物理量 ②ベクトル量とスカラー量
3	物理量とその表し方 (2)	①大きい数，小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算
4	物理学で使うグラフと関数 (1)	①数式とグラフ ②三角関数 (1)
5	物理学で使うグラフと関数 (2)	①三角関数 (2) ②ベクトルの計算
6	いろいろな運動 (1)	①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動
7	いろいろな運動 (2)	①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射
8	さまざまな力 (1)	①力とは、力の単位 ②重力 ③張力
9	さまざまな力 (2)	①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力
10	力のつり合いと運動の法則 (1)	①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則（ニュートンの第1法則） ③遠心力
11	力のつり合いと運動の法則 (2)	①運動方程式（ニュートンの第2法則） ②作用反作用の法則（ニュートンの第3法則）
12	物体の重心と回転運動 (1)	①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方
13	物体の重心と回転運動 (2)	①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのてこ
14	運動量，仕事とエネルギー (1)	①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー
15	運動量，仕事とエネルギー (2)	①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	PT・OTゼロからの物理学	望月久・棚橋信雄	羊土社	2015
参考図書等				

授業方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。		

講義科目	基礎教養			
担当講師	篠﨑　康次		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	①文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 ②文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。 ③文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	・国語力の把握と目標の確認	・表現に関する導入問題を解き、解説を行なう。 ・250字程度の課題文を書かせ、学生の表現力を確認する。 ・講義目標及び予定についての説明を行う。
2	・語句の意味と用法について ・文章の構成について ・二段構成の意見文の作成	・語句の意味・正しい使い方を理解する。 ・文章の構成について、前回作成した課題文の問題点を踏まえ理解する。 ・二段構成意見文の説明と300字程度の意見文を作成する。
3	・語句の意味と用法について ・二段構成の意見文の事実について確認する。	・語句の意味・使い方、接続関係について理解する。 ・意見を支える事実ということについて理解する。前回書いた課題文の事実を参考にして、意見を支える事実ということを確認する。
4	・文法的な正しさについて ・二段構成の意見文の作成	・文法的に正しい語句の使い方を理解する。 ・文章作成の前に、再度二段構成意見文について確認する。 ・300字程度の二段構成意見文を作成する。
5	・通信文の書き方(その1)	・通信文（縦書き）の基本の型を理解する。 ・通信文の約束事を確認する。（構成、頭語と結語、時候の挨拶等） ・前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。
6	・文法的な正しさについて ・三段構成の意見文について	・文法的に正しい表現、わかりやすい表現について理解する。 ・三段構成意見文の構成について説明する。 ・400字程度の三段構成意見文を作成する。
7	・分かりやすい表現について ・三段構成意見文の理由について	・分かりやすい表現、適切な表記について理解する。 ・三段構成意見文の理由の述べ方について理解する ・前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。
8	・敬語表現について ・三段構成意見文の作成	・敬語の基本について理解する。 ・400字程度の三段構成意見文を作成する。
9	・通信文の書き方(その2)	・通信文（記書き）の基本型について理解する。 ・前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。
10	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・三段構成の文章作成	・問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ・問題演習を通して、文の構造、文の種類、助詞について理解する。 ・400字程度の三段構成意見文を作成する。
11	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章の書き方（四段構成）	・問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ・問題演習を通して、文の作成、文の書き換えについて理解する。 ・四段構成論説文の書き方を理解する。前回作成文章の問題点を確認する。
12	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成	・問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ・問題演習を通して、文の変形、重複表現、副詞呼応等について理解する。 ・500字程度の四段構成論説文を作成する。
13	・通信文の書き方(その3)	・縦書き通信文と比較しながら、横書き通信文の基本型を理解する。 ・前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。
14	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成	・問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ・問題演習を通して、句読点の打ち方、文の結合等について理解する。 ・500字程度の四段構成論説文を作成する。
15	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章作成について	・問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ・問題演習を通して、文章の要約について理解する。 ・前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	文章検　公式テキスト　3級 基礎から学べる！ 文章力ステップ 文章検3級対応 講義用に作成した補助テキスト	公益財団法人日本漢字能力検定協会 公益財団法人日本漢字能力検定協会	公益財団法人日本漢字能力検定協会 公益財団法人日本漢字能力検定協会	2015 2015
参考図書等				

授業方法	講義形式・演習形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。
履修上の注意	文章が上手くなるには繰り返し書くことですが、ただ繰り返し書けばよいのではありません。そこで、講義では必要な知識の学習と並行して段階的に文章を書いていきますので、しっかり取り組んで文章を書けるようになりましょう。		

講義科目	対人関係演習 I			
担当講師	下地　貴樹		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。
8	人間関係①	①障がい者の家族関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。
12	施設実習 I -①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
13	施設実習 I -②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
14	施設実習 I -③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
15	振返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	ケア・コミュニケーション　第4版	松田　美幸	ウイネット	2017
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術	矢口拓宇	秀和システム	2017

授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	レポート(5割) 施設実習の評価(5割)
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。		

講義科目	対人関係演習Ⅱ				
担当講師	桑原　健志			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	回復期病棟、高齢者施設、在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①実際に社会での直接的体験を通して優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。 ②フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 ③対象者を尊重し、共感的態度をもってより良い・善い人間関係を構築できる。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。
2	ボランティア活動について	ボランティア活動の意義について理解することが出来る
3	情報収集	フィールドワーク内容について情報取集を行い、課題を選択できる
4	フィールドワーク企画①	高齢者のレクリエーション課題について計画立案が出来る
5	フィールドワーク企画②	高齢者のレクリエーション課題について計画を発表することが出来る
6	フィールドワークの実践①	現地研修（1日）
7	フィールドワークの実践②	現地研修（1日）
8	フィールドワークの実践③	現地研修（1日）
9	フィールドワークの実践④	現地研修（1日）
10	発表と相互評価	現地研修での体験を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う
11	発表と相互評価	レクリエーション課題内容を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う
12	課題の振り返り	事後報告としてレポート作成をすることが出来る
13	スタッフとの人間関係について	人間関係について自らの考えをまとめることが出来る
14	患者との人間関係について	患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る
15	地域や家族との人間関係	地域や家族との人間関係についてグループ発表をすることが出来る

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	特に指定しない			
参考図書等	特に指定しない			

授業方法	グループワーク、フィールドワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。		

Ⅱ. 専門基礎分野

講義科目	解剖学Ⅰ			
担当講師	小林　繁		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および神経系の形態と構造を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	総論、組織	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ③人体の発生の概要を理解する。
2	骨学（関節靭帯を含む） 骨学総論、関節靭帯総論	①骨の形態・構造および骨の血管と神経について理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。
3	骨学（関節靭帯を含む） 頭蓋	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。 ②頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ③頭蓋の連結：縫合と顎関節を理解する。
4	骨学（関節靭帯を含む） 脊柱、胸郭	①脊柱の外観及び椎骨基本的形態及び特徴を理解する。 ②胸郭の外観及び胸郭を構成する骨を理解する。 ③脊柱、脊柱と頭蓋及び胸郭の連結を理解する。
5	骨学（関節靭帯を含む） 上肢	①上肢帯および自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯および自由上肢骨、手の連結を理解する。
6	骨学（関節靭帯を含む） 下肢	①下肢帯および骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯および骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。
7	筋学：筋学総論	①筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ②骨格筋の作用を理解する。 ③骨格筋の神経支配を理解する。
8	筋学：上肢の筋①	①上肢帯の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②上腕の筋の起始停止走行作用を理解する。
9	筋学：上肢の筋②	①前腕の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②手内筋群の起始停止走行作用を理解する。
10	筋学：下肢の筋①	①下肢帯の筋の起始停止走行作用、殿部深層の血管・神経を理解する。 ②大腿の筋の起始停止走行作用を理解する。 ③大腿（断面）の大腿筋間中隔および血管・神経の位置を理解する。
11	筋学：下肢の筋②	①下腿の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②足の筋の起始停止走行作用を理解する。
12	筋学：顔面・体幹の筋	①頭部の筋（表情筋・咀嚼筋群・頸部の筋）の起始停止走行作用を理解する。 ②胸部・腹部・背部の筋の起始停止走行作用を理解する。
13	循環器系①	①血管の構造と役割を理解する。 ②心臓の位置・構造・役割を理解する。
14	循環器系②	①大循環と小循環の違いと役割を理解する。 ②動脈系の経路を理解する。※代表的な動脈を覚える。
15	循環器系③	①静脈系（門脈系を含む）の構造と機能を理解する。 ②リンパ系の構造と機能を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版	野村　嶬　編	医学書院	2020
参考図書等	人体解剖カラーアトラス　第7版	佐藤　達夫　訳	南江堂	2015
	消っして忘れない解剖学要点整理ノート	井上　馨　編	羊土社	2014

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	解剖学Ⅱ			
担当講師	小林 繁		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数	2
教育目標	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能（呼吸・代謝・成長など）ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	内臓学総論	①人体の発生を理解する。 ②まとめ
2	内臓学①	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②消化器系の内臓を理解する。 ③消化管の基本構造と附属腺の構造と機能を理解する。
3	内臓学②	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②気管と気管支、肺の構造を理解する。
4	内臓学③	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②腎臓・尿管・膀胱の構造を理解する。 ③生殖器系、内分泌系の構造を理解する。
5	神経系総論①	①神経系の区分を理解する。 ②神経系の構造を理解する。
6	神経系総論②	①髄膜と脳室を理解する。 ②神経系の発生を理解する。
7	中枢神経系①	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。 ②大脳基底核の構造と役割を理解する。 ③間脳の構造と役割を理解する。
8	中枢神経系②	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面（神経路と脳神経核）を理解する。
9	中枢神経系③	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。
10	中枢神経系④	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面（灰白質と白質の違い）を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。
11	中枢神経系⑤	①上行性伝導路（体性感覚、視覚、聴覚）を理解する。 ②下行性伝導路（錐体路、錐体外路）を理解する。
12	末梢神経系①	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。
13	末梢神経系②	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。
14	感覚器系	①皮膚構造を理解する。 ②特殊感覚（特に視覚、聴覚）の構造と役割を理解する。
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版	野村　嶬　編	医学書院	2020
参考図書等	Qシリーズ　新解剖学　第7版	加藤　征　監修	日本医事新報社	2019
	図解解剖学辞典　第3版	山田　英知　監修	医学書院	2013
	人体解剖カラーアトラス　第7版	佐藤　達夫　訳	南江堂	2015
	消っして忘れない解剖学要点整理ノート	井上　馨　編	羊土社	2014

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	生理学Ⅰ			
担当講師	川村　越		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	生理学の基礎Ⅰ　細胞膜	①細胞の構造：核と細胞小器官の役割 ②細胞膜の構造と機能
2	生理学の基礎Ⅱ　物質輸送	①チャンネルトランスポーター ②能動輸送 ③サイトーシス
3	生理学の基礎Ⅲ　エネルギー生成	①ATPと解糖系 ②酸化的リン酸化 ③ミトコンドリア
4	消化と吸収Ⅰ	①咀嚼と嚥下 ②蠕動運動 ③胃液・膵液・肝臓・膵臓、胆のうの働き
5	消化と吸収Ⅱ	①吸収性上皮細胞 ②膜消化 ③排便反射
6	消化と吸収Ⅲ	①糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収 ②消化管ホルモン
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。
8	呼吸と血液Ⅰ	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸運動 ③スパイログラム
9	呼吸と血液Ⅱ	①血液ガスの交換と運搬 ②酸素解離曲線 ③呼吸中枢
10	呼吸と血液Ⅲ	①血液の成分と血球の機能 ②血液凝固 ③血液型
11	血液の循環Ⅰ	①固有心筋 ②特殊心筋 ③刺激伝導系
12	血液の循環Ⅱ	①心電図 ②心周期 ③前負荷と後負荷
13	血液の循環Ⅲ	①収縮期血圧と拡張期血圧 ②減圧(昇圧）反射 ③レニンアンギオテンシン系
14	血液の循環Ⅳ	①微小循環 ②胎児循環 ③浮腫とリンパ系
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫　著	医学書院	2019
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ　生理学　人体の構造と機能	片野　由美	サイオ出版	2015
	カラー図解　よくわかる生理学の基礎　第2版	佐久間　康夫	メディカル・サイエンス	2017
	消っして忘れない生理学要点整理ノート	佐々木　誠一　編集	羊土社	2012

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	生理学Ⅱ			
担当講師	川村　越		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	ヒトの動物性機能を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	体液の調節と尿Ⅰ	①ネフロン ②濾過と再吸収 ③バソプレッシンとアルドステロン　④クリアランス
2	体液の調節と尿Ⅱ	①水の出納・脱水 ②電解質異常：酸-塩基バランス ③排尿
3	神経系の基礎	①ニューロン ②静止電位と活動電位 ③伝導と伝達　④EPSP・IPSP
4	内臓機能の調節Ⅰ	①自律神経 ②交感神経 ③副交感神経
5	内臓機能の調節Ⅱ	①内分泌 ②傍分泌 ③受容体　④セカンドメッセンジャー
6	内臓機能の調節Ⅲ	①下垂体・甲状腺 ②膵臓・副腎 ③神経内分泌
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。
8	体の支持と運動	①サルコメア ②ミオシンとアクチン ③興奮収縮連関　④クレアチリン酸
9	情報の受容と処理Ⅰ	①中枢神経 ②脳 ③脊髄
10	情報の受容と処理Ⅱ	①脳神経 ②脊髄神経 ③伝導路
11	情報の受容と処理Ⅲ	①脳波と睡眠 ②記憶 ③情動
12	情報の受容と処理Ⅳ	①視覚 ②杆体と錐体 ③眼球運動
13	情報の受容と処理Ⅴ	①聴覚・平衡覚 ②味覚 ③嗅覚
14	外部環境からの防御	①非特異的防衛機構 ②免疫 ③体温
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫　著	医学書院	2019
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ　生理学　人体の構造と機能	片野　由美	サイオ出版	2015
	カラー図解　よくわかる生理学の基礎　第2版	佐久間　康夫	メディカル・サイエンス	2017
	消っして忘れない生理学要点整理ノート	佐々木　誠一　編集	羊土社	2012

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	運動学Ⅰ				
担当講師	佐伯　和則　　桑原　健志			授業時間数	60
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年前期	実務経験	総合病院において作業療法士としての実務経験あり	単位数	4
教育目標	①身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 ②上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 ③脊柱・胸郭の構造と運動の関わり合いを理解する。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	運動機能学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する	16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足	17	上肢帯と肩関節の運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する
3	骨の分類と構成	骨の基本構造･骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。	18	上肢帯と肩関節の運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる	19	上肢帯と肩関節の運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造（形状と分類・軸・代表的な関節の観察）を理解する	20	上肢帯と肩関節の運動④	肩甲上腕リズム　上腕二頭筋長頭と肩関節を理解する
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	21	肘関節と前腕の運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する	22	肘関節と前腕の運動②	生理的外反肘・ヒューター線（三角）を理解する 前腕骨間膜について理解する
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する	23	肘関節と前腕の運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋3つのてこの関係性について理解する
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する	24	手関節と手の運動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する
10	筋収縮について②	筋張力を理解する	25	手関節と手の運動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する	26	手関節と手の運動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する	27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する	28	脊柱・体幹の構造と運動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する
14	筋と神経②	α－γ連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する	29	脊柱・体幹の構造と運動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎・胸郭の構造と運動について理解する
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的変化を理解する	30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	基礎運動学　第6版　補訂 標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版	中村隆一他 野村　嶬　編	医歯薬 医学書院	2019 2020
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論/運動器系	坂井　建雄・松村　譲兒　監訳	医学書院	2017

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	運動学Ⅱ				
担当講師	佐伯　和則			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	総合病院において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 ②脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 ③姿勢保持機構と正常歩行について理解する。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	脊柱・体幹の構造と運動③	呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する
2	脊柱・体幹の構造と運動④	脊柱の動筋について理解する 表情筋･咀嚼筋について理解する
3	下肢帯と股関節の構造と運動①	仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する
4	下肢帯と股関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する
5	下肢帯と股関節の構造と運動③	股関節の動筋について理解する
6	膝関節の構造と運動①	膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する
7	膝関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する
8	足関節の構造と運動③	足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する
9	足関節の構造と運動④	靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する
10	姿勢	重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する
11	活動に関わる身体機能と構造①	歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する
12	活動に関わる身体機能と構造②	正常歩行における床反力について理解する
13	活動に関わる身体機能と構造③	正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する
14	活動に関わる身体機能と構造④	効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する
15	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	基礎運動学　第6版　補訂 標準理学療法学･作業療法学　解剖学　第5版	中村隆一他 野村　嶬　編	医歯薬 医学書院	2019 2020
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論/運動器系	坂井　建雄･松村　譲兒　監訳	医学書院	2017

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT･OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	運動学演習 I				
担当講師	桑原　健志			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年前期	実務経験	回復期病棟、高齢者施設、在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	概論(オリエンテーション) 骨の分類と構成	骨の基本構造･骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。
2	筋の機能と形態的変化	動筋･拮抗筋･固定筋･安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的変化について理解する。
3	上肢･体幹を構成する骨	上肢帯と上肢を構成する骨の名称と位置関係について理解する。 脊柱･胸郭を構成する骨の名称と位置関係について理解する。
4	肩甲帯を構成する骨と名称①	肩甲骨の各部位について、その名称と位置を理解し、触知できる。
5	肩甲帯を構成する骨と名称②	上腕骨の各部位について、その名称と位置を理解し、触知できる。
6	前腕を構成する骨と名称	前腕(橈骨･尺骨)の各部位について、その名称と位置を理解し、触知できる。 手部を構成する骨を理解する。
7	肩甲帯の神経とその支配筋①	肩甲背神経、肩甲上神経、副神経の走行を理解する。 肩甲背神経、肩甲上神経、副神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
8	肩甲帯の神経とその支配筋②	長胸神経、肩甲下神経、胸背神経、内･外側胸筋神経の走行を理解する。 長胸神経、肩甲下神経、胸背神経、内･外側胸筋神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
9	上腕の神経とその支配筋①	腋窩神経、筋皮神経の走行を理解する。 腋窩神経、筋皮神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
10	上腕の神経とその支配筋②	橈骨神経の走行を理解する。 橈骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
11	前腕の神経とその支配筋①	橈骨神経の走行を理解する。 橈骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
12	前腕の神経とその支配筋②	橈骨神経の走行を理解する。 橈骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
13	前腕の神経とその支配筋③	正中神経、尺骨神経の走行を理解する。 正中神経、尺骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
14	手部の神経とその支配筋①	正中神経の走行を理解する。 正中神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
15	手部の神経とその支配筋②	尺骨神経の走行を理解する。 尺骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）	青木　隆明	メジカルビュー社	2019
参考図書等	標準理学療法学･作業療法学　解剖学　第5版	野村　嶬　編	医学書院	2020
	基礎運動学　第6版　補訂	中村　隆一	医歯薬出版	2019
	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系	坂井　建雄･村松　譲児	医学書院	2007

授業方法	講義･演習。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	実技練習しやすい服装で臨むこと。		

講義科目	運動学演習Ⅱ				
担当講師	亀田　秀一			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	急性期病院、在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	骨盤の骨指標	骨盤の骨指標を理解する。 骨盤の骨指標を触察できる。
2	大腿部の骨指標①	大腿の骨指標を理解する。 大腿の骨指標を触察できる。
3	大腿部の骨指標②	大腿の骨指標を理解する。 大腿の骨指標を触察できる。
4	下腿部の骨指標	下腿の骨指標を理解する。 下腿の骨指標を触察できる。
5	足部の骨指標	足部の骨指標を理解する。 足部の骨指標を触察できる。
6	腰部～大腿部の神経とその支配筋	腰神経叢と大腿神経の走行を理解する。 腰神経叢と大腿神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
7	大腿部の神経とその支配筋①	上殿神経と下殿神経の走行を理解する。 上殿神経と下殿神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
8	大腿部の神経とその支配筋②	閉鎖神経の走行を理解する。 閉鎖神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
9	大腿部の神経とその支配筋③	仙骨神経叢の走行を理解する。 仙骨神経叢が支配する筋の走行と作用を理解する。 脛骨神経の走行を理解する。
10	下腿部の神経とその支配筋①	脛骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
11	下腿部の神経とその支配筋②	浅腓骨神経と深腓骨神経の走行を理解する。 浅腓骨神経と深腓骨神経が支配する筋の走行と作用を理解する。
12	下肢の筋の整理	下肢の筋同士の位置関係を理解する。 下肢の各筋の作用を整理し説明できる。
13	頭頸部の骨指標と頭頸部前面の筋	頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部の骨指標を触察できる。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。
14	体幹前面の筋	体幹前面の筋の走行と作用を理解する。
15	頭頸部後面と体幹後面の筋	頭頸部後面と体幹後面の筋の走行と作用を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）	青木　隆明	メジカルビュー社	2019
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版	野村　嶬　編	医学書院	2020
	基礎運動学　第6版　補訂	中村　隆一	医歯薬出版	2019
	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系	坂井　建雄・村松　譲兒	医学書院	2007

授業方法	講義・演習。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	実技練習しやすい服装で臨むこと。		

講義科目	人間発達学				
担当講師	藤末　美枝			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	在宅、回復期リハビリテーション領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③運動発達の理論を理解する。
2	発達検査	①人間発達の見方を理解する。 ②発達検査の進め方の概要を理解する。 ③発達障害を呈する主な疾患について検査法選択・実施の概要を理解する。
3	姿勢反射･反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現･消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。
4	胎児期の発達	①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。
5	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。
6	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。
7	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。
8	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。
9	ADLの発達1（食事・排泄・更衣）	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。
10	ADLの発達2（遊び）	①遊びの発達を理解する。
11	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。
12	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。
13	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。
14	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。
15	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	イラストでわかる人間発達学	上杉　雅之　監修	医歯薬出版株式会社	2015
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学　第2版	大城　昌平　編	メディカルプレス	2014

授業方法	講義および演習方式で授業を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。		

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅰ				
担当講師	本田　芙紗子			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	総合病院において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション・総論	リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。
2	運動と筋	筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要となる栄養素及び酸素について理解する。
3	栄養学の基礎	3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。
4	運動と呼吸①	呼吸のメカニズムの基礎を理解する
5	運動と呼吸②	運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する
6	運動と循環①	循環器のメカニズムの基礎を理解する
7	運動と循環②	運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する
8	運動と神経	運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する
9	運動とホルモン	運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する
10	運動と体温調節	体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する
11	体力の測定	体力の中でも特に、持久力の指標について理解する
12	運動量の測定	運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防	加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する
14	栄養療法の活用	主な病態に対する栄養療法を理解する
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命	運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法(救急救命)を理解する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	入門運動生理学	勝田　茂	杏林書院	2015
参考図書等	生化学・栄養学	内山　靖　編	医歯薬出版	2020

授業方法	講義および演習方式で授業を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。		

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ			
担当講師	新小文字病院　医療技術部		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する
2	四肢の画像①	四肢における画像の位置関係を理解する
3	四肢の画像②	四肢における画像の位置関係を理解する
4	胸腹部の画像①	胸腹部における画像の位置関係を理解する
5	胸腹部の画像②	胸腹部における画像の位置関係を理解する
6	頭頚部の画像①	頭頚部における画像の位置関係を理解する
7	頭頚部の画像②	頭頚部における画像の位置関係を理解する
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する
9	薬物療法総論	薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用について理解する
11	血圧に関与する薬物療法	血圧（特に降圧）に関与する薬物療法について理解する
12	血栓に関する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する
13	疼痛に関する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する
14	代謝に関する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション医療に活かす　画像のみかた はじめの一歩のイラスト薬理学	水間正登　編集 石井邦雄　著	南江堂 羊土社	2019 2013
参考図書等	臨床薬理学	古川裕之　他	メディカ出版	2015

授業方法	講義および演習方式で授業を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。		

講義科目	医学概論			
担当講師	新小文字病院医師、内部教員		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	医学の倫理	オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント
2	医療の歴史	ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史
3	健康・病気・医学の体系	健康とは、病気の理解と分類
4	病気の原因	病理学とは、病気の原因
5	病気による身体の変化①	血行障害による病変、進行性・退行性の変化、炎症
6	病気による身体の変化②	腫瘍
7	神経疾患について	神経疾患の病態生理
8	運動器疾患について	運動器疾患の病態生理
9	内部疾患について	内部疾患の病態生理
10	病気の診断	診断の方法
11	病気の治療	治療法の概要
12	病気の予防	予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防
13	医療システム	わが国の医療システムとその役割
14	死の判定	ターミナルケア、尊厳死
15	リハビリテーションとは	リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	医学概論 リハビリテーションビジュアルブック　第2版	日野原　重明 監修：落合慈之	医学書院 学研メディカル秀潤社	2003 2018
参考図書等	系統看護学講座23　小児看護学(2)小児臨床看護学各論	奈良間　美保	医学書院	2015

授業方法	講義形式。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。		

講義科目	臨床心理学			
担当講師	吉村 仁		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 1年後期	単位数	2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワーメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。
4	心を理解する:心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投映法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。
5	心を理解する:心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。
12	心理療法の理論モデル① 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。
13	心理療法の理論モデル① 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミックスを理解する。
14	倫理療法の実際 クライエントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成，転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	面白いほど良くわかる 臨床心理学	下山 晴彦 著	西東社	2014
参考図書等	よくわかる臨床心理学	下山 晴彦 著	ミネルヴァ書房	2011
	公認心理師必携テキスト	福島 哲夫	学研メディカル秀潤社	2018

授業方法	教科書に沿い講義および演習を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学			
担当講師	宇津　貴志		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因と発症機序を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。
2	精神機能の障害と精神症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。 ③精神症状の生活への支障を理解する。
3	精神障害の診断と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②面接・観察・情報収集のポイントを理解する。 ③検査法や評価尺度を学ぶ。
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。
7	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。
8	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症状の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。
11	神経症圏精神障害	①神経性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。
12	神経症圏精神障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	学生のための精神医学　第3版	太田　保之	医歯薬出版	2014
参考図書等				

授業方法	教科書、スライド、DVDを用い講義。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	各精神障害について、原因,発生機序,症状,検査,診断,治療,経過,予後,疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。		

講義科目	リハビリテーションと作業療法 I				
担当講師	藤末 美枝			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　作業療法学科 1年前期	実務経験	在宅、回復期リハビリテーション領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①リハビリテーションの歴史的背景と語源、定義を理解し、医学的リハビリテーションの目的、対象者、実施過程と障害受容の過程を理解する ②ICFの誕生の背景と構成因子、作業療法との関係を説明できる ③作業療法の歴史と作業療法誕生に貢献した人物を理解し、現在の作業療法の定義と治療活動に関する概要を理解する				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	リハビリテーションの歴史と概念及び関連する理念	①リハビリテーションの歴史的背景と語源を理解する ②リハビリテーションの定義と目的を説明できる ③リハビリテーションと関連するIL運動・ノーマライゼーション・QOLを理解する ④リハビリテーションの諸段階と目的を理解する。⑤リハビリテーションの諸領域を理解する
2	障害の概念と我が国の社会保障制度	①健康・疾患・障害の概念を理解する ②我が国の社会保障制度を理解する
3	障害とは何か	①障害受容の段階的な心理過程を理解する ②障害受容のリハビリテーションにおける意味と価値転換を理解する
4	ICFの構成要素	①国際障害分類から国際生活機能分類への改定の背景を理解する ②ICFモデルの構成要素と各項目の関係を理解する ③ICFの生活機能と作業療法の関係性を理解する
5	作業療法の意義と定義と作業活動の種類	①作業療法の歴史的背景を理解する ②作業療法の定義を理解する ③作業療法で用いられる作業活動の種類を説明できる
6	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する
7	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する
8	作業療法の実施過程	①事例を通し作業療法の実施過程から対象者の変化をグループで話し合い理解する ②作業療法の回復段階に応じた治療活動の違いとその目的についてグループで話し合い理解する
9	作業療法の対象と領域	①身体障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②身体障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③身体障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④身体障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する
10	作業療法の対象と領域	①精神障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②精神障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③精神障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④精神障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する
11	作業療法の対象と領域	①発達障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②発達障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③発達障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④発達障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する
12	作業療法の対象と領域	①老年期障害領域の作業療法士による臨床での仕事の内容と取り組みについて ②老年期障害領域の作業療法臨床の実際から仕事のやりがい・魅力について講義を受ける ③老年期障害領域での作業療法についてのイメージ・理解できたことをグループで話し合い発表する ④老年期障害領域の作業療法の面白さ、興味を持ったことをグループで話し合い発表する
13	作業療法の対象と領域	①地域作業療法分野での作業療法のやりがい・魅力について講義を受ける ②地域作業療法における作業療法の役割と仕事の概要についてグループで話し合い発表する ③地域作業療法における作業療法のやりがい、面白さをグループで話し合い発表する
14	作業療法の対象と領域	①各分野での講義をもとに作業療法士のやりがい、おもしろさをグループで話し合う ②作業療法士が患者さんのために常に何を考え援助しているか、どのようなことを目標に取り組んでいるかをグループで話し合う ③作業療法士が治療・援助として用いる活動がどのように対象のためになっているかをグループで話し合う ④作業療法士が治療・援助として用いる活動がどのように対象のためになっているかをグループで話し合う
15	身分法、作業療法士に必要な資質と職業倫理、安全管理、個人情報の管理	①作業療法士の身分法と法的根拠について説明できる ②作業療法士に必要な資質と倫理について理解できる ③安全管理と感染対策の必要性と方法を理解する ④個人情報の管理の重要性を理解する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	ゴールドマスター改訂第2版　作業療法概論 リハビリテーションビジュアルブック　第2版	長崎重信　監修　栗原トヨ子　里村恵子 監修：落合慈之	MEDICAL VIEW 学研メディカル秀潤社	2015 2018
参考図書等	公衆衛生がみえる　2020-2021 標準作業療法学　作業療法学概論　第3版	編集：医療情報科学研究所 二木淑子（編）	MEDIC MEDIA 医学書院	2020 2016

授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	作業療法の大枠を学ぶ講義です。学んだことを自分なりにイメージして下さい。		

講義科目	リハビリテーションと作業療法Ⅱ				
担当講師	佐伯　和則			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年前期	実務経験	急性期病院・在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①地域包括ケアシステムを理解し、その中での作業療法士の役割を理解する。 ②リハビリテーションにかかわる多職種を知り、作業療法士との連携を理解する。 ③リハビリテーションにかかわる社会保障を知り、理解する。 ④救急救命に必要な知識を知る。				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	社会保障制度	保健医療福祉政策の動向について理解することができる。
2	地域包括ケアシステムとは	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範囲（地域の捉え方）を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。
3	地域包括ケアシステムとは	地域包括ケアシステムについてまとめることができる。
4	地域包括ケアシステムとは	「地域医療連携室とは何か。（外部講師）」の講義を通して地域包括ケアシステムについて理解する。
5	関連制度と関連法規	①医療保険制度について学ぶ。 ②介護保険制度について学ぶ。 ③わが国の障害者福祉制度の変遷について学ぶ。
6	関連制度と関連法規	①自立支援給付について学ぶ。 ②訓練等給付について学ぶ。 ③地域生活支援事業（自立支援など）について学ぶ。
7	関連制度と関連法規	①地域における社会資源について学ぶ。 ②特別支援教育について学ぶ。 ③生活困窮者自立支援制度（就労支援など）について学ぶ。
8	関連制度と関連法規	「介護保険制度とケアマネジメント（外部講師）」の講義を通して介護保険制度について理解を深める。
9	多職種との連携	①医療機関で連携をしていく職種を知る。 ②医療機関で連携していく職種の役割を知る。
10	多職種との連携	①地域リハビリテーション連携をしていく職種を知る。 ②地域リハビリテーション連携をしていく職種の役割を知る。
11	多職種との連携	医療機関と地域リハビリテーションでの作業療法士の役割を知る。
12	他職種との連携	まとめと発表
13	救急救命について	BLS(AED)について実技を通して理解する。
14	救急救命について	BLS(AED)について実技を通して理解する。
15	自然災害とボランティア活動	地震・津波災害の対策と災害ボランティア（グループワーク）を通して考える。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	改訂第2版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　作業療法学概論	長﨑 重信・里村 恵子	株式会社メジカルビュー	2017
参考図書等	地域包括リハビリテーション 実践マニュアル 作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論	編　河野 真 編集　杉原 素子	羊土社 協同医書出版社	2018 2011

授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	作業療法の大枠を学ぶ講義です。学んだことを自分なりにイメージして下さい。		

Ⅲ. 作業療法学科専門分野

講義科目	基礎作業学Ⅰ				
担当講師	諫山 歩			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　作業療法学科 1年前期	実務経験	精神科領域および高齢者施設において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①作業療法における作業の意味・特性を理解し、作業療法における治療的効果の概要を理解する ②日頃私たちが行っている作業は、どのような能力を使って遂行されているのか、どのような生物学的・心理社会的・文化的意味があるかを意識する				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	作業とは	①作業療法での作業の意味を理解する
2	作業の分類・構成要素1	①生活の中のいろいろな作業を挙げることができる。 ②作業を分類できる
3	作業の分類・構成要素2	①作業の構成要素が理解できる。
4	作業の主観的意味1	①生産的作業とはどのようなものか理解する ②楽しい作業とはどのようなものか理解する ③休息になる作業とはどのようなものか理解する
5	作業の主観的意味2	①作業バランスについて理解する ②作業バランスについて自己の生活をもとに分析し、対象者の作業をバランスという観点から理解することの必要性知る。
6	作業の文脈1	①還元主義について説明出来る ②アフォーダンスについて、例を挙げて説明出来る ③空間的側面いついての概要を知る
7	作業の文脈2	①エティックとエミックについて例を挙げて説明出来る ②対象者理解の視点として人の役割について理解出来る
8	作業による成長と回復1 （作業を通した回復の視点）	①医学的視点での患者理解と作業的視点の違いについて理解する
9	作業による成長と回復2 （作業を通した回復の視点）	①医学的視点での患者理解と作業的視点の違いについて理解する
10	作業遂行に関する包括的理解	①カナダ作業モデル・人間作業モデルの概念を知る
11	作業遂行に関する包括的理解	①生活行為向上マネジメントの視点を知る
12	作業遂行に関する包括的理解	①生活行為向上マネジメントの視点を知る
13	作業に関する身体的理解	①人の作業を知るために、身体構造、脳機能、動作を理解する必要性を知る
14	作業に関する精神的理解	①人の作業を知るために、精神機能、こころを理解する必要性を知る
15	対人関係と作業活動	①人の作業を知るために、人と関わること（コミュニケーション）を理解する必要性を知る

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	作業って何だろう　第2版 作業療法学全書　改訂第3版　基礎作業学 OTマニュアル　66　生活行為向上マネジメント　第3版	吉川ひろみ 日本作業療法士協会　監修 日本作業療法士協会	医歯薬出版 協同医書出版社 中央法規出版	2017 2009 2018
参考図書等	標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　第3版	濱口豊太（編）	医歯薬出版	2017

授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	講義の聴講で完結するのではなく、ひとが作業を行うときどのような能力をどのような処理過程を経て使用しているか、自ら思考し、自己の体験との結びつけができるよう取り組むこと		

講義科目	基礎作業学Ⅱ				
担当講師	諫山 歩　　桑原 健志			授業時間数	60
開講年次	昼間コース　　作業療法学科 1年後期	実務経験	精神科領域および高齢者施設において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①作業療法における重要な視点を具体的な作業を通して学ぶ ②各種モデルの概念・評価について理解を深め、作業療法が作業活動を媒介とした様々な対象者への治療・指導・援助技術であることを理解し、具体的に適用する方法を学ぶ				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	作業の知1	作業の持つ意味性・目的性・具体性・投影性について、説明できる	16	包括的作業分析とその例	目地を入れ、タイルモザイクを完成させることが出来る
2	作業の知2	ひとが作業をする際におきる能動性・身体性・操作性・没我性について、説明できる	17	包括的作業分析とその例	タイルモザイクの包括的作業分析ができる
3	作業の知3	ともに作業することでおきる共有性について説明できる	18	分析結果と治療への応用	作業提供の工夫で段階づけができる
4	作業の治療的意義	作業を治療に使用するために必要なことがわかる	19	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることが出来る
5	作業分析とは	作業分析の目的がわかる 作業分析の種類を知る	20	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることが出来る
6	包括的作業分析とその例	包括的作業分析の目的がわかる 分析項目及びその視点を知る	21	個人と集団	個人作業と集団作業の特徴と効果を知る
7	包括的作業分析とその例	革細工の工程を知る。 カービング・スタンピングを経験する	22	集団作業療法	レクリエーション活動における作業療法の意義がわかる
8	包括的作業分析とその例	染色を経験する	23	集団作業療法	レクリエーションの基本概念が言える　レクリエーション実施上の要点が言える
9	包括的作業分析とその例	レーシングを経験する	24	集団での作業活動を企画する　演習1	対象に合わせたレクリエーションを考えることができる
10	包括的作業分析とその例	革細工の包括的作業分析ができる	25	集団での作業活動を企画する　演習2	対象に合わせたレクリエーションを考えることができる
11	分析結果と治療への応用	作業提供の工夫で段階づけができる	26	集団での作業活動を企画する　演習3	レクリエーションを実施することができる
12	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることが出来る	27	集団での作業活動を企画する　演習4	レクリエーションを実施することができる
13	分析結果と治療への応用	分析結果をもとに、適応となる対象者を考えることが出来る	28	集団での作業活動を企画する　演習5	レクリエーションを実施することができる
14	包括的作業分析とその例	タイルモザイクの工程を知る。 タイルの仮置きとデザインを決定する	29	集団活動体験後の振り返り	レクリエーションの効果が言える
15	包括的作業分析とその例	タイルをカットし、貼り付けていく	30	まとめ	受講内容を整理し理解することができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	作業活動実習マニュアル　第2版 ひとと作業・作業活動　新版	古川　宏 山根　寛	医歯薬出版 三輪書店	2018 2015
参考図書等	レクリエーション　改訂第2版	寺山　久美子	三輪書店	2004

授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験、提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	作業を遂行・経験して、分析的な視点での考察を行う また、作業が身体的要素のみならず、精神的・心理的要素からも成り立つことや、対象者別、目的別に多岐にわたることを知る 治療的応用の際にどのように分析の結果を活用し、手順を踏むかを知る。 ※作業内容に関しては、一例を示しているため、実際の作業内容は異なる場合がある。		

講義科目	基礎評価学演習 I				
担当講師	本田　芙紗子　　亀田　秀一			授業時間数	60
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年前期	実務経験	総合病院において 作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①各種の検査・測定の目的と概要を他者に説明できる ②各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる ③各種の検査・測定の実施上の留意点を述べることができる ④各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明できる				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	①学習の進め方について理解できる	16	関節可動域（ROM）検査	上肢　肩甲帯、肩関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
2	評価の基礎	①リハビリテーション医療における評価の意味を説明できる	17	関節可動域（ROM）検査	上肢　肩甲帯、肩関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
3	意識障害・全身状態の評価	①検査の目的・対象者・検査項目を説明できる	18	関節可動域（ROM）検査	上肢　肘関節、前腕、手関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
4	意識障害・全身状態の評価	①バイタルサイン（循環器の検査、呼吸器の検査）と意義を説明できる	19	関節可動域（ROM）検査	上肢　肘関節、前腕、手関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
5	意識障害・全身状態の評価	①血圧、脈拍の測定を実施できる ②血圧計の取り扱い手順がわかる	20	関節可動域（ROM）検査	下肢　股関節　の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる（実技）
6	意識障害・全身状態の評価	①血圧、脈拍の測定を実施し、計測の注意と結果の判断基準を言える	21	関節可動域（ROM）検査	下肢　股関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
7	姿勢・形態計測	①姿勢の評価を説明できる ②体位と構えを説明できる	22	関節可動域（ROM）検査	下肢　膝・足関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
8	姿勢・形態計測	①形態計測の目的が言える ②ランドマークの触診ができる	23	関節可動域（ROM）検査	下肢　膝・足関節の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる （実技）
9	姿勢・形態計測	①周径の測定を実施できる	24	関節可動域（ROM）検査	頸部・体幹、手指の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる（実技）
10	姿勢・形態計測	①四肢長の測定を実施できる	25	関節可動域（ROM）検査	頸部・体幹、手指の関節可動域を手順・注意点を守り測定できる（実技）
11	姿勢・形態計測	①その他の測定を実施できる	26	評価の基礎	①評価過程について説明できる
12	中間まとめ	2～11回のポイントを説明できる	27	評価の基礎	①ICFモデルを用いて評価結果をあらわすことができる
13	関節可動域（ROM）検査	①正常な関節可動域と異常な関節可動域の定義を説明できる ②関節の構造を説明できる	28	評価の基礎	①観察②検査・測定③統合と解釈④問題点の抽出とは何か説明できる
14	関節可動域（ROM）検査	①関節可動域における最終域感・関節可動域制限とその原因を説明できる	29	評価の基礎	⑤目標及び治療計画の設定⑥治療プログラムの立案⑦記録とは何か説明できる
15	関節可動域（ROM）検査	①関節可動域検査の手順を説明できる②面と軸、運動方向を説明できる	30	まとめ	復習と各回のポイントを説明できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション基礎評価学　第2版	潮見　泰茂，下田　信明　編集	羊土社	2020
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版 基礎運動学　第6版補訂	野村　嶬 編 中村隆一　著	医学書院 医歯薬出版	2020 2012

授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	評価の目的と意義を理解し、対象者への基本的態度・身だしなみ、基本技術を習得するよう履修してください。運動学や解剖学との関連を考えながら学ぶこと。実技は身に付くまで練習すること		

講義科目	基礎評価学演習Ⅱ				
担当講師	佐伯 和則　　亀田 秀一			授業時間数	60
開講年次	昼間コース　　作業療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院・在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①各種の検査・測定の目的と概要を他者に説明できる ②各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる ③各種の検査・測定の実施上の留意点を述べることができる ④各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明できる				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）	No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	知覚検査	感覚と知覚の違い、感覚の伝導路を説明できる	16	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）肩関節
2	知覚検査	表在感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる（実技）	17	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）肩関節
3	知覚検査	表在感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる（実技）	18	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）肩関節
4	知覚検査	深部感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる（実技）	19	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）肘関節　前腕
5	知覚検査	複合感覚障害の検査方法に沿って実際の検査ができる（実技）	20	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）手関節　手指
6	知覚検査	ハンドセラピー領域の知覚検査の方法に沿って実際の検査ができる（実技）	21	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）頸部・体幹
7	知覚検査	知覚検査について、解剖生理・検査の意義・対象となる疾患を説明できる	22	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）頸部・体幹
8	疼痛の評価	疼痛とは何か、検査の意義や手順を説明できる	23	筋力検査	機器を利用した粗大筋力の計測　握力・ピンチ力の計測（ハンドセラピー領域の検査法）を実施できる
9	疼痛の評価	痛みの臨床的評価尺度について知り、検査の一部を実施できる	24	筋力検査	筋力検査法について説明できる
10	筋力検査	筋力とは何か、解剖生理・検査の意義について説明できる	25	脳神経検査	脳神経の機能と働きを解剖生理運動学をもとに説明できる
11	筋力検査	徒手筋力検査法の検査方法のルールを知る	26	脳神経検査	運動系　脳神経検査を手順・注意に沿って実施できる（実技）
12	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）股関節	27	脳神経検査	感覚系　脳神経検査を手順・注意に沿って実施できる（実技）
13	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）股関節	28	上肢機能検査	上肢機能検査を手順・注意に沿って実施できる（実技）
14	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）膝関節	29	上肢機能検査	上肢機能検査を手順・注意に沿って実施できる（実技）
15	筋力検査	徒手筋力検査法に沿って検査を実施できる（実技）足関節	30	まとめ	各回で習得した内容を説明し、実施できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション基礎評価学　第2版 新・徒手筋力検査法　原著第10版 病気が見えるVol.7　脳・神経　第2版	潮見　泰茂，下田　信明　編集 津山直一・中村耕三　訳 医療情報科学研究所	羊土社 協同医書出版社 メディックメディア	2020 2020 2017
参考図書等	適宜紹介			

授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	服装・身だしなみは学外実習に準ずる。自宅で毎回の授業の復習をするとともに正確に検査を行えるように何度も実技練習を行うこと。障害に関連する疾患について自己学習を行い理解を深めるよう努めること		

講義科目	臨床評価学演習 Ⅰ				
担当講師	亀田 秀一　　本田 芙紗子			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科 1年前期	実務経験	総合病院において 作業療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる
2	学生としての基本的な態度	実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～
3	検査の目的と対象者への説明	検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる
4	検査：バイタルサイン （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる：バイタルサイン（脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用方法、記録の実際）
5	検査：バイタルサイン （実技テスト）	対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
6	検査：バイタルサイン （実技テスト）	対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
7	検査：形態計測 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる：形態計測（四肢長と周径の計測方法、検査器具の取り扱いと記録の実際）
8	検査：形態計測 （実技テスト）	対象者に形態計測（四肢長と周径の計測）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
9	検査：形態計測 （実技テスト）	対象者に形態計測（四肢長と周径の計測）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
10	検査：形態計測 （実技テスト）	対象者に形態計測（四肢長と周径の計測）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
11	検査：関節可動域測定：上肢 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認し実践できる：関節可動域測定（上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）
12	検査：関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
13	検査：関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
14	検査：関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション基礎評価学　第2版	編集　潮見泰蔵	羊土社	2020
参考図書等	臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第2版	監修　才藤栄一	金原出版株式会社	2019
	PTOTのための評価測定　形態計測・感覚検査・反射検査　第2版	監修　福田　修	三輪書店	2014
	PTOTのための評価測定　ROM測定　第2版	監修　福田　修	三輪書店	2010

授業方法	演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	実技試験（30%）、提出課題（30%）、学修態度（40%）を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交え学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とします。技術の習得のみならず、望ましい態度を身につけるよう学ぶ。		

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ				
担当講師	佐伯 和則　　亀田 秀一			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院・在宅領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	検査:関節可動域測定:下肢 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定（下肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）
2	検査:関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
3	検査:関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
4	検査:関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
5	検査:関節可動域測定:手指 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:関節可動域測定（手指・肩甲帯の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）
6	検査:関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
7	検査:関節可動域測定 （実技テスト）	対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
8	検査:MMT:下肢・体幹 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹の計測、記録の実際）
9	検査:MMT （実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
10	検査:MMT （実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
11	検査:MMT:上肢・手指 （実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる:徒手筋力検査法（上肢・手指の計測、記録の実際）
12	検査:MMT （実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
13	検査:MMT （実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
14	検査:MMT （実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション基礎評価学　第2版 新・徒手筋力検査法　原著第10版	編集　潮見泰蔵 訳　津山直一・中村耕三	羊土社 協同医書出版社	2020 2020
参考図書等	臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第2版 PTOTのための評価測定3　MMT　第2版 PTOTのための評価測定4　MMT　第2版	監修　才藤栄一 監修　伊藤俊一 監修　伊藤俊一	金原出版株式会社 三輪書店 三輪書店	2019 2016 2016

授業方法	演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	実技試験（40%）、提出課題（40%）、学修態度（20%）を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交え学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とします。技術の習得のみならず、望ましい態度を身につけるよう学ぶ。		

講義科目	日常生活活動学演習 Ⅰ				
担当講師	本田　芙紗子			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	総合病院において 作業療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①リハビリテーションにおける日常生活の概念・範囲・意義を理解する ③基本動作と身の回り活動の身体運動の特徴を演習体験をもとに運動学的視点、解剖学的に理解する ③演習にて実際のIADLを体験し、観察・分析・記録し理解を深める				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	ADLの概念とリハビリテーション	①ADLの概念について説明できる②リハビリテーションにおける目標とADLの関係性を説明できる③ADLの範囲と用語の違いを説明できる
2	ADLとICF、QOLの関係	①「しているADL」と「できるADL」の違いを説明できる②リハビリテーションにおけるQOLの重要性を説明できる③QOLの向上とADLの自立との関係性を説明できる
3	ADLの種類と動作観察	①ADLの種類（基本動作、身の回り活動等）について説明できる②動作観察の重要性と基本的な視点を説明できる③基本動作の一部について観察を体験する
4	基本動作について（静的）	静的基本動作を分類し、セルフケアとの関連性を理解できる
5	基本動作について（動的）	動的基本動作を分類し、セルフケアとの関連性を理解できる
6	基本動作の動作観察体験	立ち上がり動作を観察、分析し記録できる
7	セルフケア：食事活動	食事活動の身体活動の特徴や意義について理解できる
8	セルフケア：整容活動	整容活動の身体活動の特徴や意義について理解できる
9	セルフケア：更衣活動	更衣活動の身体活動の特徴や意義について理解できる
10	セルフケア：排泄活動	排泄活動の身体活動の特徴や意義について理解できる
11	セルフケア：入浴活動	入浴活動の身体活動の特徴や意義について理解できる
12	セルフケアのまとめと作業療法	セルフケアの各活動の特徴と違いについて理解できる
13	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について体験を通し理解できる
14	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について体験を通し理解できる
15	IADL体験	IADLの身体活動の特徴や意義について発表を通し理解を深める

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法学テキストⅤ　日常生活活動　第2版 リハビリテーション基礎評価学　第2版	千住　秀明 潮見泰藏，下田信明／編	神陵文庫 羊土社	2007 2020
参考図書等	作業療法学全書　改訂第3版　日常生活活動 PT・OTビジュアルテキスト　姿勢・動作・歩行分析	酒井ひとみ　編集 臨床歩行分析研究会／監	協同医書出版社 羊土社	2009 2015

授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	自分自身の日常生活での身体活動を体験をもとに再確認し、運動学、解剖学の知識をもとに理解する		

講義科目	義肢学				
担当講師	橋本　知美			授業時間数	30
開講年次	昼間コース　　作業療法学科　1年後期	実務経験	小児・身体障害・在宅（地域）領域において作業療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①切断のリハビリテーションの実践を理解する ②義手の構造を理解し、義手訓練及び適合判定を実践できる				

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	義肢総論	① 義肢の定義を説明できる ② 切断の原因と動向を説明できる ③ 切断術の原則を説明できる
2	切断者のリハビリテーション	① 切断術前後の評価方法を説明できる ② 切断術後の断端管理について説明できる ③ 切断術後の合併症について説明できる
3	義手各論①	① 義手の分類を説明できる ② 義手の構成要素と機能を説明できる
4	義手各論②	① 義手の部品とそれらの機能について説明できる（手先具～肘継手）
5	義手各論③	① 義手の部品とそれらの機能について説明できる（肩継手～ハーネス）
6	前腕義手について	① 前腕切断の部位分類と残存機能を説明できる ② 前腕義手の構成要素と機能を説明できる
7	前腕義手の適合判定について	① 前腕義手の適合判定方法を説明できる ② 不具合の原因と修正方法を説明できる
8	上腕義手について	① 上腕切断の部位分類と残存機能を説明できる ② 上腕義手の構成要素と機能を説明できる
9	上腕義手の適合判定について	① 上腕義手の適合判定方法を説明できる ② 不具合の原因と修正方法を説明できる
10	義手のリハビリテーション	① 義手装着前訓練のポイントを説明できる ② 義手装着訓練のポイントを説明できる
11	義手のリハビリテーション	① 実際に義手の装着についての手順を説明できる（実技） ② 義手装着、チェックアウトができる（実技）
12	筋電義手について	① 筋電義手とは何か説明できる ② 筋電義手の構成を説明できる ③ 筋電義手の制御システムを説明できる
13	下肢切断について下肢切断の分類とリハビリテーション	① 下肢切断の部位分類を説明できる ② 下肢切断部位による残存機能を説明できる
14	大腿義足と下腿義足について	① 大腿義足の分類と構成要素・機能を説明できる ② 下腿義足の分類と構成要素・機能を説明できる
15	義手・義足のまとめ	① 国家試験問題を通してポイントを整理できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	義肢装具学　第4版	川村次郎　他	医学書院	2015
参考図書等	作業療法学全書　改訂第3版　義肢装具学	古川宏　他	協同医書出版社	2009
	切断と義肢　第2版	澤村誠志　著	医歯薬出版	2016
	義肢装具のチェックポイント　第8版	伊藤利之　他	医学書院	2014

授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	国家試験において必ず出題される義手の構造を理解し、動作の仕組みを理解して下さい		

Ⅳ. 臨床実習

講義科目	臨床実習Ⅰ（病院見学実習）			
担当講師	作業療法学科教員・臨床教育指導者		授業時間数	45
開講年次	昼間コース	作業療法学科　1年後期	単位数	1
教育目標	チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解する。			

講義計画（講義内容を含む）

【見学の概要】
チーム医療について学び、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。

教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標
（認知領域）チーム医療について説明できる。
（認知領域）チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を説明できる。
（認知領域）チーム医療における他専門職の立場と役割を説明できる。
（認知領域）病院で働く理学療法士・作業療法士の１日の仕事の流れを説明できる。

教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標
（情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。
（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、利用者に対し相応しい態度や対応がとれる。
（情意領域）状況に即した言動を取ることができる。
（認知領域）代表的な疾患の症状・現象について理解している。
（運動領域）必要に応じてメモを取ることができる。

教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標
（情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。
（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、利用者に対し相応しい態度や対応がとれる。
（情意領域）状況に即した言動を取ることができる。
（認知領域）代表的な疾患に対する評価や治療について理解している。
（運動領域）必要に応じてメモを取ることができる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考図書等				

授業方法		成績評価方法	
履修上の注意			